

## 運動量保存則と運動エネルギー変化（質点・重心・相対運動）の関係

1. 質点の運動エネルギーの和＝重心の運動エネルギー＋重心から見た質点の運動エネルギーの和  
＝重心の運動エネルギー＋相対運動の運動エネルギーの和

簡単のため、同一直線上を、

質量  $m$  の質点と質量  $M$  の質点が、それぞれ速度  $v$  と速度  $V$  で運動しているものとする。

$$\frac{1}{2}mv^2 + \frac{1}{2}MV^2 = \frac{1}{2}(m+M)v_G^2 + \frac{1}{2}m(v-v_G)^2 + \frac{1}{2}M(V-v_G)^2 \quad , \quad \left( v_G = \frac{mv+MV}{m+M} \right)$$

証明

質点の運動エネルギーの和＝重心の運動エネルギー＋重心から見た質点の運動エネルギーの和

$$\begin{aligned} \frac{1}{2}mv^2 + \frac{1}{2}MV^2 &= \frac{1}{2}m\{(v-v_G)+v_G\}^2 + \frac{1}{2}M\{(V-v_G)+v_G\}^2 \\ &= \frac{1}{2}m\{(v-v_G)^2 + 2v_G(v-v_G) + v_G^2\} + \frac{1}{2}M\{(V-v_G)^2 + 2v_G(V-v_G) + v_G^2\} \\ &= \frac{1}{2}(m+M)v_G^2 + \frac{1}{2}m(v-v_G)^2 + \frac{1}{2}M(V-v_G)^2 + mv_G(v-v_G) + Mv_G(V-v_G) \\ &= \frac{1}{2}(m+M)v_G^2 + \frac{1}{2}m(v-v_G)^2 + \frac{1}{2}M(V-v_G)^2 + v_G\{mv+MV-(m+M)v_G\} \\ &= \frac{1}{2}(m+M)v_G^2 + \frac{1}{2}m(v-v_G)^2 + \frac{1}{2}M(V-v_G)^2 + v_G\left\{mv+MV-(m+M)\cdot\frac{mv+MV}{m+M}\right\} \\ &= \frac{1}{2}(m+M)v_G^2 + \frac{1}{2}m(v-v_G)^2 + \frac{1}{2}M(V-v_G)^2 \end{aligned}$$

質点の運動エネルギーの和＝重心の運動エネルギー＋相対運動の運動エネルギーの和

$$\begin{aligned} \frac{1}{2}mv^2 + \frac{1}{2}MV^2 &= \frac{1}{2}(m+M)v_G^2 + \frac{1}{2}m(v-v_G)^2 + \frac{1}{2}M(V-v_G)^2 \\ &= \frac{1}{2}(m+M)v_G^2 + \frac{1}{2}m\left(v - \frac{mv+MV}{m+M}\right)^2 + \frac{1}{2}M\left(V - \frac{mv+MV}{m+M}\right)^2 \\ &= \frac{1}{2}(m+M)v_G^2 + \frac{1}{2}m\left\{\frac{M}{m+M}(v-V)\right\}^2 + \frac{1}{2}M\left\{\frac{m}{m+M}(V-v)\right\}^2 \\ &= \frac{1}{2}(m+M)v_G^2 + \frac{1}{2}\frac{mM^2}{(m+M)^2}(v-V)^2 + \frac{1}{2}\frac{m^2M}{(m+M)^2}(v-V)^2 \\ &= \frac{1}{2}(m+M)v_G^2 + \frac{1}{2}\frac{mM}{m+M}(v-V)^2 \end{aligned}$$

$\frac{1}{2} \frac{mM}{m+M} (v-V)^2$  について

$\frac{mM}{m+M}$  は換算質量と呼ばれるもので、質量  $m$  と質量  $M$  の質点が、

それぞれ作用  $F$ 、反作用  $-F$  の関係の外力を受け、加速度  $a$ 、 $A$  で運動をするとき、その相対運動の運動方程式を立てると現れる質量である。

$$ma = F \text{ より, } a = \frac{F}{m} \quad \dots \textcircled{1}$$

$$MA = -F \text{ より, } A = -\frac{F}{M} \quad \dots \textcircled{2}$$

質量  $m$  の質点の質量  $M$  の質点に対する加速度（相対加速度）は、

①、②より、

$$\begin{aligned} a - A &= \frac{F}{m} - \left( -\frac{F}{M} \right) \\ &= \left( \frac{1}{m} + \frac{1}{M} \right) F \\ &= \frac{m+M}{mM} F \end{aligned}$$

となり、

これを変形することにより、

相対加速度の運動方程式  $\frac{mM}{m+M} (a - A) = F$  が得られる。

$v - V$  は相対速度を表すから、

$\frac{1}{2} \frac{mM}{m+M} (v - V)^2$  は相対運動の運動エネルギーと見ることができる。

## まとめ

### 質点の運動エネルギーの和

= 重心の運動エネルギー + 重心から見た質点の運動エネルギーの和

= 重心の運動エネルギー + 相対運動の運動エネルギー

$$\begin{aligned} \frac{1}{2} mv^2 + \frac{1}{2} MV^2 &= \frac{1}{2} (m+M) v_G^2 + \frac{1}{2} m (v - v_G)^2 + \frac{1}{2} M (V - v_G)^2 \\ &= \frac{1}{2} (m+M) v_G^2 + \frac{1}{2} \frac{mM}{m+M} (v - V)^2 \end{aligned}$$

2. 重心から見た質点の運動量の総和は0である。

$$m(v - v_G) + M(V - v_G) = 0$$

証明

$$\begin{aligned} m(v - v_G) + M(V - v_G) &= mv + MV - (m + M)v_G \\ &= mv + MV - (m + M) \cdot \frac{mv + MV}{m + M} \\ &= mv + MV - (mv + MV) \\ &= 0 \end{aligned}$$

3. 運動量保存則が成り立つときの質点の運動エネルギー変化と重心の運動エネルギー  
運動量保存則が成り立つとき、 $mv + MV$  は定数となるので、

$$\text{重心の速度 } v_G = \frac{mv + MV}{m + M} \text{ は一定である。}$$

また、重心の速度が一定のとき、 $mv + MV$  は一定だから、運動量が保存される。

よって、

**運動量保存則が成り立つことと、重心の運動エネルギーが保存されることは同値である。**

ここで、運動量保存則が成り立つ系において、

質量  $m$  の質点と質量  $M$  の質点の速度が、それぞれ  $v_0$  から  $v_1$ 、 $V_0$  から  $V_1$  に変化したとする。

$$mv_0 + MV_0 = mv_1 + MV_1 \quad (v_0 \neq v_1, V_0 \neq V_1)$$

このときの運動エネルギー変化は、

$$\begin{aligned} \frac{1}{2}mv_1^2 + \frac{1}{2}MV_1^2 &= \frac{1}{2}(m + M)v_G^2 + \frac{1}{2}m(v_1 - v_G)^2 + \frac{1}{2}M(V_1 - v_G)^2 \\ &= \frac{1}{2}(m + M)v_G^2 + \frac{1}{2}\frac{mM}{m + M}(v_1 - V_1)^2 \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} \frac{1}{2}mv_0^2 + \frac{1}{2}MV_0^2 &= \frac{1}{2}(m + M)v_G^2 + \frac{1}{2}m(v_0 - v_G)^2 + \frac{1}{2}M(V_0 - v_G)^2 \\ &= \frac{1}{2}(m + M)v_G^2 + \frac{1}{2}\frac{mM}{m + M}(v_0 - V_0)^2 \end{aligned}$$

$v_G = \text{一定}$  より、

$$\frac{1}{2}mv_1^2 + \frac{1}{2}MV_1^2 - \left( \frac{1}{2}mv_0^2 + \frac{1}{2}MV_0^2 \right) = \frac{1}{2}\frac{mM}{m + M}(v_1 - V_1)^2 - \frac{1}{2}\frac{mM}{m + M}(v_0 - V_0)^2$$

よって、

**運動量保存則が成り立つとき**

**運動エネルギーの変化 = 相対運動の運動エネルギーの変化**